平成23年海津市議会第3回定例会

◎議事日程(第2号)

平成23年9月12日(月曜日)午前9時開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

◎出席議員(18名)

1番	伊藤秋弘君	2番	山田武君
3番	赤尾俊春君	4番	浅井まゆみ君
5番	六鹿正規君	6番	藤田敏彦君
7番	山田勝君	8番	堀田みつ子君
9番	川瀬厚美君	10番	森昇君
11番	服部寿君	12番	水谷武博君
13番	飯田洋君	14番	渡辺光明君
15番	星野勇生君	16番	永田武秀君
17番	西脇幸雄君	18番	松岡光義君

◎欠席議員(なし)

◎地方自治法第121条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

市長	松永清彦君	副市長	後藤昌司君
教育長	横井信雄君	総務部長併 選挙管理委員会 事務局書記長	福田政春君
総務部総務課長併 選挙管理委員会 事務局次長	青木彰君	総務部財政課長	服部尚美君

企 画 部 長	伊 藤 恵 二 君	会 計 管 理 者	伊 藤 久 義 君
産 業 経 済 部 長	大 倉 明 男 君	建 設 部 長	丹 羽 功 君
水 道 環 境 部 長	高 木 武 夫 君	市 民 福 祉 部 長	木 村 元 康 君
市 民 福 祉 部 次 長 兼 福 祉 総 務 課 長	平 野 敏 君	消 防 長	吉 田 一 幸 君
教 育 委 員 会 長 事 務 局 長	三 木 孝 典 君	監 査 委 員 長 事 務 局 長	菱 田 義 博 君
農 業 委 員 会 長 事 務 局 長	水 谷 明 寛 君	教 育 委 員 会 課 長 (施 設 課 長) 併 総 務 部 課 長 (施 設 課 長)	岡 田 健 治 君
教 育 委 員 会 長 こ ども 課 長	菱 田 一 義 君		

◎本会議に職務のため出席した者

議 会 事 務 局 長	大 橋 茂 一	議 会 事 務 局 課 長 補 佐 兼 総 務 係 長	岡 田 法 子
議 会 事 務 局 議 事 係 長	中 野 浩 二		

◎開議宣告

○議長（松岡光義君） 定刻でございます。ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前9時00分）

◎会議録署名議員の指名

○議長（松岡光義君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、議長において6番 藤田敏彦君、7番 山田勝君を指名します。

◎一般質問

○議長（松岡光義君） 日程第2、一般質問を行います。

今定例会の一般質問は、会議規則第56条ただし書き及び第57条の規定により、議員1人当たりの質問・答弁の時間を40分以内とし、これを許可します。

それでは、通告書を受理した順に発言を許可します。なお、質問者、答弁者は、初めに壇上にて行い、再質問があった場合は自席にてお願いいたします。

再質問には議員各位の議席番号を省略させていただきますので、御了解願います。

◇ 六 鹿 正 規 君

○議長（松岡光義君） 最初に、5番 六鹿正規君の質問を許可します。

〔5番 六鹿正規君 登壇〕

○5番（六鹿正規君） おはようございます。本日は、大勢の方の傍聴をいただきましてまことに御苦労さまでございます。よろしくお願いいたします。

一般質問をさせていただきます。

平成23年第3回定例会において、下記の事項について一般質問を行いたいので、会議規則第62条第2項の規定により通告いたします。海津市議会議長様。

質問の要旨といたしまして、まず第1点目、教育委員選任問題「任命責任」について。質問相手、市長。

2番目に、介護保険事業計画について。質問相手、市長。よろしくお願いいたします。

6月18日土曜日の某新聞で、Y氏が海津市の教育長に就任されることを知り、この人選はいかなものかというお尋ねがありました。

私がお会いした方をM氏とお呼びさせていただきます。私は、個人的にY氏とは個人的なおつき合いはございませんが、教員、校長を経て、海津市教育委員会教育研究所に籍を置か

れていると聞いており、教育行政、また子どもたちの健全育成、子どもたちの未来に熱い思いをお持ちの方ではないですかとお話をさせていただきました。

すると、M氏が3月20日、御自身が作成された教育委員会教育研究所職員に対する苦情という文書、前の教育長あて、それと同時にY氏がM氏にあてた3月24日付謝罪文、あわせて、今回の件について御容赦いただきたい旨の文面に、教育長の捺印がある文書をM氏から手渡されました。え、まさかという思いで読まさせていただきました。

市長、あなたはいつこの出来事を知られたのですか。あなたのところにも、M氏からのメールが届いておと思うが、どのように判断処理をされたのか。また、すべて承知の上で議会にY氏の教育委員選任同意を求められたのか、お尋ねいたします。

次に、介護保険事業計画についてをお尋ねします。

平成24年度から26年度までの第5期介護保険事業計画の策定作業を進められていることと思います。施設入所待機者の解消はもちろんのこと、中でも大きなというか、深刻な課題は保険料額の決定であります。

現在、海津市の保険料月額が4,700円で、全国平均4,160円、県平均3,937円を大きく上回り、県下で4番目と上位に位置しています。第5期計画では、どれぐらいの月額になるのか非常に関心が高いところでもあります。さらに、高齢者が受給されている年金額も目減りしている、そういった中、介護保険料をさらに75歳以上の方には後期高齢者保険料が年金より徴収されています。今でも大変なのに、これ以上の負担となるとふだんの生活にも影響するとの声もたくさん聞こえております。

ここで確認いたしますが、国民健康保険特別会計では、これまでの基金が底をつき、療養給付金の大幅な伸びに伴い、一般会計より療養給付費に対して繰り入れを行っています。

平成22年度には税率改正を行い、本来の税金による財源確保を図ったところではありますが、長引く景気低迷と保険税の滞納に伴い収入が予測を下回り、一方では医療給付費は増大し、一般会計より保険税激変緩和繰出金として2億円の繰り入れ、財政補てんを行い、また23年度には財政支援繰出金として2億8,000万円の繰り入れを行っております。

反面、国民健康保険以外の医療保険に加入されている方は、保険料率により保険料を納めており、協会健保においては同じような状況から健康保険法が改正され、都道府県ごとの保険料率に移行、そして保険料率の引き上げも行われておりますが、行政からの補てんはありません。

海津市の世帯数は1万2,072世帯、そのうち国民健康保険に加入されている世帯は5,870世帯です。これでは、同じ市民でありながら、また納税者としてサービスの公平・平等が保たれていないのではないのでしょうか。

ここで申し上げたいのは、介護保険の1号被保険者は加入している医療保険の区分はなく、

65歳以上の全員が対象です。

また、国民健康保険も介護保険もどちらも保険者は海津市、市長、あなたです。だれもが介護が必要になっても、安心して自分らしく暮らせる老後を望んでいます。

ここで、次の項目についてお尋ねいたします。

第1番目として、第5期介護保険事業計画において、保険料負担の軽減を図るため、介護保険特別会計にも国民健康保険特別会計同様、一般会計からの補てん、繰り入れを行う考えはないのですか。お尋ねをします。市民サービスの公平、平等性をしっかり考慮されてお答えいただきたいと思います。

第2点、第4期介護保険事業計画も残すところあと6カ月、計画どおり進捗していますか。また、3年間における数値、認定率と利用率、保険料収入額、サービス給付費等に大きな誤差は出ていないのでしょうか。もし、誤差が生じているとしたら、その原因と第5期への問題はないのでしょうか。

3番目に、現在の施設入所の待機者はどれだけおみえですか。第5期介護保険事業計画において、施設サービスの計画は盛り込まれているのかお尋ねをいたします。

よろしく願いいたします。

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君の質問に対する市長の答弁を求めます。

市長 松永清彦君。

〔市長 松永清彦君 登壇〕

○市長（松永清彦君） 六鹿正規議員の教育委員選任問題「任命責任」の御質問にお答えします。

教育委員の選任については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条に規定しており、どの委員も法律に定める資格をお持ちで、海津市の教育委員としてふさわしい人物であると考えております。今回の任命同意についても、議会において全会一致で承認をいただいているところであります。

また、教育長たる委員が去る7月15日をもって辞職することとなっていました。このため、教育委員会において教育長を委員のうちから任命する必要があり、このことを考慮して後任委員を選任させていただいております。

さて、いつ今回問題となっている出来事を知ったのかという点についてでございますが、議会の開会日以前であったと記憶しております。しかしながら、知っていましたのはこの件についての概要のみであり、子細については十分把握しておりませんでした。

また、謝罪することにより、一件落ち着いているものであると考えていた次第であります。

次に、どのように判断処理したのかについてでございますが、M氏には大変不愉快な思いをさせてしまいました。教育長本人とともに大変申しわけなく思っております。教育委員就

任前で、プライベートな時間の出来事であったとはいえ、十分に相手の気持ちを考えるべきであったと考えております。

教育長は、学校教育課長在職中、海津市におけるキャリア教育の今日の基礎を築きました。キャリア教育は、子どもたちの生きる力を育て、社会の厳しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろうさまざまな課題に柔軟に、かつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるようにするために必要な教育であり、強く推進が求められています。

また、このキャリア教育と申しますのは、皆さん御存じかと思いますが、兵庫県で酒鬼薔薇事件という事件がございました。この酒鬼薔薇事件を受けて、知事、教育長、兵庫県のですね。どう対応していったらよいか、それを真剣に考えてこのキャリア教育を始めたのであります。このキャリア教育がよいということで、富山県でキャリア教育が始まりました。次いで東京都で始まりました。私は、県会議員をしておりましたので、岐阜県でこのキャリア教育をする意思、気持ちはないかと尋ねたところでございますが、私が市長になりまして、このキャリア教育を子どもたちの健全育成のためのキャリア教育を進めるということを御提言させていただいたんですが、その中で学校の先生方はよしとする方とそうでない方がいらっしやいましたが、横井教育長は、この兵庫から講師を招き、そしてキャリア教育のスタートが切れたわけでありまして。

このキャリア教育は、その後、教育研究所に就任されました伊藤先生の力で、今海津市の中学校では全校でキャリア教育がなされています。さらには、120社に上る地域の会社の方々、この方々の御協力をいただいて、そして地域で子どもたちを育てようと、大きくこの事業が前進しております。このことを進めていただいたのが、横井教育長さんでありました。

さらには、平田中学校校長在職中には、子どもたちのスポーツ指導に情熱を傾け、特にバレーボール部は優秀な成績をおさめています。平田中学校でバレーボールのクラブがありませんでした。7人の部員で岐阜県で1番になってくれました。東海大会にも行ってくれました。その子たちが岐阜工業へ進みました。4人。その子どもたちは、岐阜工業がインターハイに出たことない学校でありましたが、インターハイに岐阜工業を連れていってくれました。この春、全員が会社に就職されたというお話を聞いております。

海津市の子どもたちを元気に教育する、そういったお力を持っておられると考えております。

過ちにつきましては、真摯に反省しなければなりません、海津市の教育にとって必要不可欠な人材であると考えた次第であります。

公人となった今、教育長は今回の出来事を十分に反省し、教育の原点を見詰め直している

と聞き及んでおります。御存じのとおり、海津市において教育は幾つもの懸案事項を抱えております。ぜひ職務を全うし、解決に向けて取り組んでいただければ大変ありがたいと考えているところであります。

教育委員各位の力を結集し、また私たち行政に携わる者が教育委員会をサポートする中で、海津市の子どもたちが真に健やかに成長するよう努めてまいりたいと存じますので、議員各位には御理解と御協力を御願い申し上げます。

〔「議長、余りにも答弁が長いので、私の再質問、またこれに対する答弁が時間内に終わらないと思います。もう少し答弁を簡潔にお願いします。私の時間をなくすつもりで長引かせるのか。もう少し短くお願いします」と呼ぶ者あり〕

○市長（松永清彦君） 私は、六鹿議員の御質問に対して、真摯にお答えをしているつもりでございますので、よろしくお願い申し上げます。

次に、介護保険事業計画についての御質問にお答えします。

1点目の第5期介護保険事業計画において、保険料負担の軽減を図るため、介護保険特別会計にも国民健康保険特別会計同様、一般会計からの補てん、繰り入れを行う考えはないかのお尋ねですが、介護保険に関しては介護保険の財源の1割は介護サービスの利用者負担であり、残りの9割については、介護保険法により国、県、市の公費負担が50%と規定されており、40歳以上65歳未満の人である第2号被保険者の負担割合については、介護保険の国庫負担の算定時に関する政令第5条で30%と定められております。

したがって、65歳以上の人である第1号被保険者で、残りの20%を保険料として負担していただくことになっております。

このように、それぞれ負担割合が規定されており、一般会計から補てんをすることについては、県高齢福祉課にも問い合わせたところ、少なくとも介護保険設立以来、岐阜県においては一般会計から赤字補てんを行った市町村は把握していないとのことであり、非常に好ましくないとのことでもあります。

したがって、介護保険については、保険料負担の軽減を図るため、一般会計からの補てん、繰り入れをすることは、現在のところ制度上できないと言わざるを得ません。御理解をいただきたいと思っております。

2点目の第4期介護保険事業計画について、計画どおり進捗しているかのお尋ねですが、第4期事業計画で予定しておりました事業については、第4期計画年度中における目標達成に向けて現在取り組んでいるところであります。

また、平成23年3月末現在の当市の要介護、要支援認定者数は1,401人で、平成12年度の介護保険制度発足時からほぼ一貫して増加しております。平成23年3月末の計画値は1,457人であり、56人少なくなっております。介護保険利用者数については、計画値1,161人に対

して実利用者数1,179人であり、18人増加しております。

一方、財政面では、介護保険料については、平成22年度決算で予算額5億1,910万円に対して、調定額5億3,050万円、収入済額5億1,827万円となっております。介護サービス等諸費と支援サービス等諸費を合わせた介護保険給付費については、平成21年度は計画値21億9,700万円に対し、22億1,100万円です。100.6%でありましたが、平成22年度は計画値23億5,500万円に対し22億9,600万円です。97.2%となっております。これらのことから大きな誤差は生じておらず、計画値で推移しております。

3点目の現在の施設入所の待機者はどれだけかのお尋ねですが、平成23年6月1日現在の調査で、特別養護老人ホームの重複申し込みを除いた待機者は346人となっております。この中には、現在既に施設に入所している方も含まれていますので、実際に入所を必要としている方はもっと少ないものと思われそうですが、依然として多数の待機者がおみえになることは認識しております。

したがって、第5期介護保険事業計画については、充足率と保険料とのバランスを考慮した上で、施設サービスの計画について検討してまいりたいと考えております。

以上、六鹿正規議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

〔5番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） 第1点目の教育長の選任問題、任命責任について再質問させていただきますけれども、今貴重な時間を使って教育長の人間性、また今まで取り組んでみえたこと、こういったこと御説明をいただきました。

私は、この質問の中でもお話ししたように、個人的にはおつき合いはございませんが、教員、校長を経て、子どもたちの未来に熱い思いをとこういうふう述べております。だから、そうしたらと説明は要らんですよ。貴重な時間なんですよ。お願いしますよ。私がここで教育委員さんをけなしておれば、また別ですよ。私がお尋ねしておるのは、任命責任をお尋ねしとるんですよ。

だから、私が市長、あなたにお聞きしたいのは、概要のみでしたと。しかし、3月の何日でしたかね。秘書広報課のほうへ多分メールが届いておると思います。それはたしかあなたも御存じやと思いますよ。

〔発言する者あり〕

○5番（六鹿正規君） ああ、そうですか。じゃ、後日また秘書広報課のほうでまた、はい。

私が議会で同意をした。確かにそうですよ。しかし、その時点では何もこういったことを触れられていない。今ここで、私はこの迷惑文書を読み上げる、それも考えましたけども、

やはり教育長のいろんなことを考えて、今は控えさせていただきます。

しかし、私はあなたの責任についてお尋ねしておるんです。あなたが、この出来事を承知してから、このM氏と接触を持たれましたか。持たれたとしたら何回持たれたのか。また、そのときにどんな内容をお話されたのかお答えください。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） まずは、答弁は真摯にお答えしているものでございまして、六鹿議員もそのことを御理解いただきたいと思います。

私は、このM氏は古くからの知り合いでございまして、いろんなお話を、御指導をいただいております。

したがって、この件に関しましては当初はそういうトラブルがあったということも知りませんでした。トラブルがあったということで聞きましたのは、もう教育長に選任する前です。私は、両方とも存じ上げておりますので、こういう個人対個人のトラブル、これはお二人で解決していただくことが大事であろうと思います。しかも、お互いに和解をされたという話を聞きました。

したがって、人間だれもよいところとそうでないところがあるかと思いますが、そういった中で自分を反省しながら、今度教育行政で力を十二分に発揮していただけることを期待しているわけでありまして。

そのところを、六鹿議員さんには理解していただきたいと、このように思います。

〔5番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） まだ答弁ができていません。M氏と何回合って、またどんなような。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） M氏とは、もうずっと古いおつき合いでありますので、何回もお会いしておりますが、この件に関しましては2回です。2回お会いしました。

議会の前に1回、議会が終わってから1回、2回お会いしております。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

〔5番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） この問題で時間を食ってはいかんですけれども、私が聞きたいことがなかなかストレートに答弁いただけない。

私は、市長、あなたが言われるように、この問題は謝罪文をもって終わったと。当然M氏もそのつもりでございました。

しかし、このたしかメールが、市長、あなたのところにも行っておると思うんですけれども、

一部読まさせていただきます。

「人事のことですから、個人的には云々。こんな程度か云々。もし、正式に決定された場合、私個人的にこの事実を公にする手段を考えていることを御報告いたします」と。これは、1つの私は今回こういった一般質問をする、議員さんにお話をしますよということの事前通告であると。この問題について、市長はM氏とお会いになったときに、どんなことをお話されましたか。私の聞く範囲では、やはり当初先ほども教育長の校長時代云々、こういうふうだから任命しましたよと。しかし、その後で、一般質問の取り下げをしてもらうように頼んでもらえんかというようなことをお話されたとは私は聞きますけども、本来これは本末転倒な話だと思います。

私はM氏にお会いして、どんな内容だったのかとお聞きしました。私の今回の問題は、迷惑行為については謝罪文等々で終わるものと思っておりました。

しかし、こういった忠告のメールをいただいて、その後M氏とどんなような形で、私も今回のことはできるだけ表へ出したくないと、いろんなことを考えました。ですから、詳しくは述べません。あなたの任命責任を私はお尋ねします。あなたが、議会がどうしたから私じゃないですよというふうであれば、それも1つのお答えかもしれません。どうぞ。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） まず、議会が同意したらということではございません。

先ほども申し上げましたように、教育に対する教育長の姿勢を評価して、教育委員会の中で任命をされましたので、私は同意したわけでございます。

それから、この問題は個々の問題。私は両方ともよく存じ上げております。したがって、それを六鹿議員もおっしゃいましたように、私もお互いに理解をしていただいて、前へ進めていただければ大変ありがたいなど。それで、議会の一般質問どうのこうのということは、六鹿議員からそんなようなお話もございましたけれども、私は取り下げてくれと、直接はっきりとお願いしたわけではございません。横井先生はこういう先生なので、ぜひそのところをお願いしたいというお話をさせていただきました。

〔5番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） 今の市長の御答弁、これは当然後に議事録になって、また読まさせていただきますことがあると思いますし、またM氏もこういったことを、市長の答弁をインターネット等で知られることと思います。

また、この件については後日質問することがあれば、また質問をさせていただきます。この問題は終わります。

続きまして、介護保険のほうへ入らせていただきます。

岐阜県においては、一般会計から補てんをしておるところはないというふうに言われました。それでは、じゃ、岐阜県内はない。じゃ、日本全国の自治体ではどうでしょうか。その点お尋ねします。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 介護保険は、先ほども御説明申し上げましたように、一定の制度のもとに運営をいたしております。

したがいまして、その制度の中で運営をしていくということが肝心だと考えております。

今、部長に確認しましたら全国でもないというようなことを申しておりました。

〔5番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） 今後、保険料等々の値上げも考慮しなくてはいけないのかなど、いろんな形でサービスを皆様方に十二分なサービスを提供するには、そういったこともあるのかなど。

また、そういったことを値上げを抑えるためと申しますか、何かそういったことを考慮し、サービスの低下等々につながらないように、よろしく願いをいたします。

続きまして、第4期計画年度中に目標達成に向けて現在取り組んでいると言われましたけれども、第4期事業計画では、平成22年度に地域密着型介護福祉施設が整備されるとなっておりますが、それにあわせて保険料も算定されているはずですが、どこに整備をされているのですか、お尋ねします。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 1つ、また六鹿先生に怒られますが、介護保険の状態についてちょうどよい機会ですので皆さんに御理解を賜りたいと思います。

海津市の保険料、先ほどは4番目だというお話でしたが、これはサービスを受ける方がいらっしゃるので、こういった数字になっているということでありまして、そして、特に施設が充実すればするほど、これは費用は拡大するわけでありまして、そういった費用が拡大することに、市民の皆様方の御理解が得られれば、それは施設を拡大していくことが可能であろうと思います。

したがいまして、この計画を立てるに当たりまして、今、職員と話しておりますことは、計画の中で、どこまでやればどのような形になるのか、そういったことを市民の皆様方に御説明を申し上げ、そして御理解を得た上で計画づくりを進めることが肝要であろうと、このように思っております。サービスがそれだけふえれば介護保険料は上がるわけでありまして、そのこともぜひ御理解をいただきたいと思っております。

六鹿議員の御質問に対しては部長より答弁させていただきます。

○議長（松岡光義君） 市民福祉部長 木村元康君。

○市民福祉部長（木村元康君） それでは、施設整備についての御質問にお答えいたします。

22年度中に計画をされておりました施設整備につきましては、23年度事業ということで、海西地区におきまして小規模特養そしてまた小規模多機能型の事業所を有します施設が現在進行中でございますので、よろしくお願いたします。

〔5番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） 今、23年度事業というふうに言われましたけども、この海津市高齢者保健福祉計画の中では、22年度にこれはオープンですかね、そういうふうになっておりますけども、なぜこれ23年度の事業にされたんですか。

○議長（松岡光義君） 市民福祉部長 木村元康君。

○市民福祉部長（木村元康君） これは、若干準備等がおくれたというのも現実にはございますが、国の補助率等、そういったことの改定等もございまして、第4期計画中の最終年度であります23年度で事業着手をするということにされたわけでございます。

〔5番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） そうですね、世の中はじっとしておるわけではございません。いろんな角度でいろんな出来事が生じ、また、いろんな出来事が各事業に影響しておるということもわからなくはございませんけども、こういったことを例えば22年度中にオープンして、皆さんにサービスもしますよという計画の中で保険料等々が制定されておるのではないですか。本来、サービスを計画どおりに皆さんに与えることができないのに、料金だけを、保険料も上げるというのか、上げたままいただくのか、そういったことはちょっと矛盾しておるのではないかなというふうにも考えられます。やはり、おくれたのであれば、その間は住民サービス、皆さんが待ってみえるサービスが行えないというのに、そういった徴収だけはきちっとする、皆さんにサービスを与えますよという、それを前提にして決めたとおりに云々というのは、ちょっとこれは矛盾があるのかなと。また、そういったことも、もう少し慎重に考えてやっていただきたいと思います。

続きまして、今後こういった、先ほど市長も、住民の皆さんの同意が得られれば、まだまだサービスの提供ができる施設を考えてもいいというふうに、私は言われたのかなというふうに解釈しましたけども。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 先ほども申し上げましたように、この介護保険の事業は、これから高齢社会の真ただ中に入っておりますが、必要なことだろうと認識をしております。その中

で、どのような施設が必要なのか。しかしながら、この制度の中でやるためには、やはり費用ということがございますので、そのところが解決しない限りなかなか難しい点もあろうかと、このように認識をいたしております。そのことを御理解いただける努力を私どもはしなくてはいけない、このように思っております。

[5番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 六鹿正規君。

○5番（六鹿正規君） 実は、介護の相談にそういった施設へ訪れられた方々が、施設のほうから、4年ぐらいは待ってもらわないかんというふうに言われたそうです。本来は、そういったことのないように住民福祉またいろんな形で、いつも市長が言われるように、住んでよかったという海津市にするには、いろんな立場の人に十二分とは言いませんけども、十分な納得をしていただくために行政をつかさどっていただかなければならないと思っております。介護は大変な重労働でございます。とにかくそういったことに相談に行かれた方々に、4年待ってくれと、これはちょっときついんじゃないかなと。少なくとも計画の予定どおりに進んでやっていただきたい。

市長、例えばあなたは、御両親はお亡くなりになってお見えにはなりませんけども、もし御両親を抱えて介護ということに携わっておったのであれば、4年という期間はなかなか長いものではないかなというふうに考えます。そういった住民のことを十二分に考慮して、これからよろしく願いいたします。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 大変貴重な御意見をありがとうございました。

1つだけ、御報告申し上げますが、介護を待機しておられる方の状態にもよると私は思うんです。したがって、至急に入っていただかなくてはいけない方、もう少し頑張りたい方、いろいろあろうかと思っておりますので、そのとこの御理解もひとつお願いを申し上げたいということでございます。

それから、ただ、何年待ってくださいということではなくて、ない場合はケアマネジャーさんを通じていろんな施設を探して御紹介申し上げる、そういうことも努力いたしておりますので、ぜひ御理解のほどお願いを申し上げます。

○議長（松岡光義君） これで六鹿正規君の一般質問を終わります。

◇ 浅井まゆみ君

○議長（松岡光義君） 続きまして、4番 浅井まゆみ君の質問を許可します。

[4番 浅井まゆみ君 登壇]

○4番（浅井まゆみ君） おはようございます。

議長のお許しをいただきましたので、通告に従い2点質問させていただきます。

まず1点目に、学校施設の防災機能強化についてお伺いいたします。

東日本大震災を受けて文部科学省は、全国の学校施設を地域の防災拠点として整備していく方針を打ち出しました。今回の震災では、ピーク時には622校が避難所として使われ、5カ月を経過した現在でも、その1割が避難所になったままになっていて、現場からさまざまな問題提起がなされております。

震災の教訓を踏まえて文科省は、震災後、防災や建築の専門家らによる検討会議を立ち上げ、震災に対応できる学校施設のあり方を議論、今後の整備に当たって緊急提言が取りまとめられました。

緊急提言の柱は3点です。1. 学校施設の安全性の確保、2. 地域の拠点としての学校施設の機能の確保、3. 電力供給力の減少などに対応するための学校施設の省エネルギー対策の3点です。

本市においても、小・中学校が避難所に指定されており、今回の震災で地域における学校の重要性が再認識されました。

そこで、以下、お伺いいたします。

1、小・中学校の構造体の耐震は既に終わっておりますが、今回、多くの学校施設で天井材、内装・外装材、照明器具、設備機器、窓ガラス、家具など、また、バスケットゴールの破損といった非構造部材の被害も発生いたしました。そこで、非構造部材の耐震対策を早急に進めるべきと思いますが、いかがでしょうか。

2、下水道が使えなくなった場合に備え、プールの水をトイレの水洗に使えるように配管やポンプを整備することや、汚水の貯留槽を敷地内に設置することなどを提案しておりますが、これらの取り組みが必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

3、避難所運営についても、教職員と地域住民の自主防災組織の間で避難者誘導や炊き出しなどの役割分担を明確にするよう提言しております。さらに、学校施設には地域コミュニティの拠点として機能強化の重要性が指摘されております。これらへの対応についてお伺いいたします。

4、今回の震災では電力供給力が大幅に減少し、学校施設においてもさらなる省エネルギー対策を講じることが求められております。そこで、太陽光発電や緑のカーテン、LED照明などの省エネ機器、壁などの断熱化など、エコスクール整備の推進についての取り組みについてお伺いいたします。

2点目の質問です。少子化対策として不育症治療の助成についてお伺いいたします。

40%の女性が生涯に流産を経験しておりますが、妊娠しても流産や死産を繰り返してしまう病気のことを不育症といいます。妊娠しない不妊症とは違い、妊娠は成立しますが、おな

かの中で赤ちゃんが育たない病気です。16人に1人の割合で不育症がいることがわかっております。しかし、原因を突きとめることで適切な治療ができ、元気な赤ちゃんを出産できる病気でもあります。

不育症の原因は人によって違いますが、適正な検査と治療によって85%の方が出産にたどり着くことができると言われております。ところが、不育治療の多くが保険適用外のため、数十万円から100万円くらいかかることで治療をあきらめざるを得ない方も見えます。また、不育症のことを知らずに苦しんでいる方も多くいるようで、周知徹底を図り、検査受診も促進していく必要があります。

岡山県真庭市では、全国で初めて昨年4月より不育症治療への助成制度がスタートし、1人目の出産に限り30万円を上限として助成しております。また、石川県能美市でも、ことし4月より助成制度が始まっております。

市長にお伺いいたします。本市においても少子化対策の一つとして不育症治療への公費助成ができないか、お尋ねいたします。以上です。

○議長（松岡光義君） 浅井まゆみ君の質問に対する市長の答弁を求めます。

市長 松永清彦君。

〔市長 松永清彦君 登壇〕

○市長（松永清彦君） 浅井まゆみ議員の学校施設の防災機能強化についての御質問にお答えします。

本市は、市の施設を中心に、33カ所を指定避難所として地区ごとにある10の小学校を主要避難所として位置づけ、これまでに備蓄資機材等の整備を進めてまいり、今回の東日本大震災の被害を踏まえ、避難所としての機能をさらに強化する方針であります。

1点目の非構造部材の耐震対策についてですが、今回の東日本大震災において多くの学校施設で天井材、照明器具、内装材、外壁の落下など非構造部材の落下により負傷する人的被害が生じたほか、学校施設が避難場所として使用できないといった事態も発生しており、非構造部材の耐震化の重要性が再認識されたところであります。

非構造部材の対応については、阪神大震災後、小・中学校等多くの施設で書棚や家具等の転倒のおそれのあるものを金具で固定し、教室のテレビ等設備機器についてはバンド等により固定し落下の防止等を講じてまいりました。最近では、保育園の廊下や保育室入り口、窓等のガラスの飛散防止のフィルム張りつけなどを行い、安全確保に努めてきたところであります。

また、今尾小学校、海西小学校において、本年3月11日の地震の後、教室の天井のはりのモルタル剥離が確認されましたので、6月の議会で補正予算をお認めいただき、この夏休みのうちに補修工事が完成しております。

このほか、本議会で補正予算をお願いします小・中学校の収納棚フィルム張り工事については、理科室において収納棚から実験器具等の飛び出しを防ぐフィルム張りつけを行い、ガラスの割れによるけがの防止をするものであります。

非構造部材は多種多様で、対策の方法もさまざまです。想定される危険の芽をできる限り見つけ、可能なものから速やかに対策を講じてまいります。このような取り組みの中で安全で安心な学校を目指し、地震発生時の被害を少しでも軽減していきたいと考えています。

2点目の、プールの水をトイレの水洗に使うことや、汚水の貯留槽を設置するという取り組みにつきましては、既存のトイレブースを活用し、組み立て式便器と便袋のセットによる処理によって対応はできるものと判断しております。今回の大震災の被害を踏まえ、組み立て式便器は現行の2基から4基の備蓄を8基ずつにふやし、便袋は1.5倍へと増強する計画であります。また、学校プールの水の活用については、飲料水としてではなく顔や手洗い等の生活用水として再使用できるよう、簡便な薬剤による浄化などを検討しているところでございます。

3点目の避難所運営の教職員と自主防災組織との役割分担の明確化につきましては、本市の計画では、主要避難所にあつては、あらかじめ指名された避難所緊急開設員の市職員、避難された自治会長さん等の自主防災リーダー、地元消防分団との協力によって避難所の立ち上げを行い、時間の経過とともにその中で役割を分担化していくこととなっており、教職員は別の扱いとなっております。もちろん、登校してもらえば市職員と同様の役割を担っていただくこととなります。いずれにしましても教育委員会と防災担当部局が今後さらに連携を強化していかなければならないと考えております。

また、地域コミュニティの拠点としての機能強化の重要性が指摘されていることへの対応ですが、学校と官公署に加え、社会教育施設等の公共施設を集約した総合複合施設とするとか、学校と公園に福祉施設等を一体的に整備してあれば、平常時はもとより災害時の総合型避難施設としても有効であると思います。しかしながら、本市につきましては、現況の公共施設の配置を踏まえ、これを効率的に活用するため、乳幼児や障がい者、高齢者の方などが安心して避難生活を過ごせるように努めてまいりたいと考えております。

4点目のエコスクール整備の推進についての取り組みについてですが、今回の震災では、電力供給量が大幅に減少し、特に東京電力及び東北電力管内においては、緊急措置として被災していない地域においても計画停電が実施され、電力需要がピークになる夏季には使用最大電力の抑制を初めとする電力需要対策が求められました。そのため、学校施設においても電力需要対策につながる省エネルギー対策を従前以上に講じることが求められており、従来から推進されていますエコスクールの整備を一層推進する必要が高まってきております。

現在、本市におけるこのエコスクールの整備の一つとして太陽光発電設備を3校の小学校

で設置しています。また、LED照明につきましては、ほとんどの学校で未使用であります、現在建設中の城南中学校の屋内運動場では一部採用を予定しております。

緑のカーテンにつきましては学校側の自主性にゆだねており、4校の小学校で取り組んでいます。

このほか、エネルギーの負荷の軽減を図る方法として、屋根や壁の断熱化、複層ガラスの採用等があります。エコ技術も目覚ましく発展していることから、大規模改造等補助金等の助成を勘案しながら学習環境の向上に努めたいと存じます。今後、可能などころよりエコスクールを進めたいと存じますので、よろしくお願いを申し上げます。

次に、少子化対策として不育症治療の助成についての御質問にお答えいたします。一般的に妊娠の10から15%は自然流産になる場合があると言われてはいますが、これは多くの場合、原因が赤ちゃん側にあり、いわば偶発的なものととらえられています。したがって、一度流産しても、その次は出産することができる場合がほとんどであります。しかしながら、妊娠はするけれども、流産、死産、早期新生児死亡などが繰り返して起こる場合は偶然が重なったとは考えにくく、何らかの要因によるものとされ、このことが議員の申されますように不育症と言われているものであります。

不育症は、病態が多様であること、それぞれの病態ごとの治療方針が一定していないこと、ストレス等の要因が病態を複雑にすること、また、たまたま胎児異常を繰り返しただけの偶発的な症例も含まれることなどから、多くの産婦人科にとって難解な疾患となっています。そのため正確なリスク因子を抽出することができなかつたり、逆に偶発的な症例に対して過度の治療を施行していることもあるとのことであります。また、不育症例のかかるうつに関しての専門医も少なく、十分な対応ができていないのが現状であります。

これら不育症治療には、保険適用外での対応が余儀なくされる現状にあつて自費診療となるため、真に赤ちゃんを欲する御夫婦にとりましては大きな経済的な負担を伴うものと思われれますが、今のところ本市では市民の皆様から不育症と思われるような相談等を受けた事例はなく、今後は市民の皆様にも不育症に対する正確な情報提供を積極的に行いながら反応を見守るとともに、国・県の動向、他の市町村の状況につきまして注視してまいります。したがって、現段階では不育症治療費の助成につきましては考えておりませんので、御理解をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

以上、浅井まゆみ議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

[4番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 浅井まゆみ君。

○4番（浅井まゆみ君） ありがとうございます。

まず、学校の防災強化についてでございますが、天井材や照明器具の落下、そういったもので今回の大震災では数多くの方がけがをなされたとお聞きしております。また、体育館にありますバスケットゴールが落下して大けがを負ったという事例もあったそうです。ですので、バスケットゴールの補強耐震のほうも、どうぞよろしくお願ひいたします。

それから、窓ガラスによってけがをするおそれがあると思いますが、今回の補正では理科室の戸棚に飛散防止フィルムが張られるようですが、窓ガラスについても、今、高須認定こども園と石津認定こども園においてはフィルムが張られているとお聞きいたしましたが、今尾こども園のほうはまだのようでございますので、早急にやっていただきたいと思っております。

今後また小・中学校へも窓ガラスへの飛散防止フィルムを張っていくとよいと思いますが、そのお考えはありますか。

○議長（松岡光義君） 教育委員会事務局長 三木孝典君。

○教育委員会事務局長（三木孝典君） 失礼いたします。

今後、財政当局とも相談しながら、順次進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

〔4番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 浅井まゆみ君。

○4番（浅井まゆみ君） ありがとうございます。

続きまして、地域コミュニティー、避難所の運営について少しお尋ねします。

9月4日に予定されていた防災訓練が、今回、台風の影響で中止されてしまったので残念でしたけれども、職員はいろんな事態を想定してシミュレーション訓練を行ったそうでございます。しかし、実際に今回のような大震災に見舞われた場合、とても職員だけでは対応できないと思います。地域の自主防災組織と連携して避難所を運営していく必要があると思っております。

そこで、1つ御紹介いたしますが、静岡県の開発いたしました避難所運営模擬ゲームというのがありまして、HUG（ハグ）といいまして、Hが避難所、Uが運営、Gがゲームということで、ゲームと言うと不謹慎に聞こえるかもしれませんが、これはどういったものかといいますと、具体的には10名前後が1つのグループとなり、避難所を運営する役員となり、最初の段階で殺到する出来事にどう対応するか、避難所となっている学校の体育館や校庭の見取り図に用意されたカードを災害ボランティアの方が読み上げ、どのように対応するかを話し合い、対応していくものでございます。45分程度で250枚をこなしていくので、次々に処理していかなければならず、参加者は本当にパニックになってしまうそうでございます。

例えば、「ぐあいの悪い妊婦さんが避難所に避難してきました。どうしますか。避難所の

どこにいていただきますか」とか、「まだ1人では歩けない75歳の男性が70歳の妻と避難してきました。どうしますか」といったような質問を矢継ぎ早にされていくそでございませう。そして、災害ボランティアさんから、「はい、次々に住民の方が避難してきますよ」などという声がかけられたり、あつという間の45分が過ぎていくというものです。

この机上訓練には答えがありません。参加者が避難所を運営するときに、どんな視点を持たなくてはいけないかを実感することが大きな目的といえます。このHUGはまさに生きた訓練といえるのではないのでしょうか。こういったものもぜひ推奨していただきたいと思っております。

それから、静岡県では避難所運営マニュアルというものができておまして、こういった避難所運営チェックリストというものがつくられております。岐阜県では、こういったものがつくられているのか、ホームページを見たところではないように思いますが、もしつくられておまして、市町村にそれが配布されているのか、お尋ねいたします。もしそれがなければ、市独自でこういったものをつくったらいかがでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（松岡光義君） 消防長 吉田一幸君。

○消防長（吉田一幸君） 避難所運営マニュアルにつきましては、海津市のものとしてできております。この訓練は、この前中止になりましたが、さんざん物を持っていったり、出したりしてやって、今片づけておりますので、またその際に各主要避難所に1冊ずつ配置するというふうに進めているところです。以上です。

〔4番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 浅井まゆみ君。

○4番（浅井まゆみ君） ありがとうございます。

次に、エコスクール構想でございますが、今、太陽光発電が3校に設置されておるとお聞きいたしました。今後、太陽光発電はほかの小・中学校へも進めていくお考えがありますか。

○議長（松岡光義君） 教育委員会事務局長 三木孝典君。

○教育委員会事務局長（三木孝典君） 本件につきましては、なかなか市費だけというのは非常に難しい状況でございますので、国や県の助成制度等を勘案しながら今後検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

〔4番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 浅井まゆみ君。

○4番（浅井まゆみ君） ありがとうございます。

それから、まだLED電球のほうも、今回、城南中の屋内運動場のほうに設置されるようですが、ほかの小・中学校へも順次交換していただければよいかと思っておりますので、ど

うぞよろしくお願いいいたします。費用のほうも関係あると思いますので、またその辺も考慮しなから順次進めていただきたいと思います。

また、緑のカーテンも、今、4校だけしかやっていないとお聞きしましたので、これは簡単にできる本当にエコ対策ですので、全学校で推進していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。

次に、不育症治療の助成についてお伺いたします。

現在、私が調べたところ、全国市町村ではやっているところが2市しかないんですけれども、ほかにおわかりでしたら教えていただきたいと思います。

○議長（松岡光義君） 市民福祉部長 木村元康君。

○市民福祉部長（木村元康君） お答えいたします。

これは公的機関のデータではございませんが、6月現在で全国の自治体で、御質問にもございましたように岡山県の真庭市さんを含めまして10の自治体で取り組んでおみえになります。

〔4番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 浅井まゆみ君。

○4番（浅井まゆみ君） ありがとうございます。

今の市長の答弁の中に、海津市では不育症と言われる方はいらっしゃらないという御答弁でしたが、知らないという場合があると思うんです。ですので、広報やホームページなどで周知徹底をしていただいて、適切な治療を受けていただいて妊娠に結びつけていけるような周知徹底のほどをよろしくお願いいいたします。また、相談窓口もぜひ設けていただきたいと思います。っておりますので、よろしくお願いいいたします。

公的支援というサポートがあれば、本当により多くの方が新たな命を授かることができます。ぜひ来年度予算に盛り込まれることを要望いたしまして、これで質問を終わります。

○議長（松岡光義君） これで浅井まゆみ君の一般質問を終わります。

◇ 伊 藤 秋 弘 君

○議長（松岡光義君） 続きまして、1番 伊藤秋弘君の質問を許可します。

〔1番 伊藤秋弘君 登壇〕

○1番（伊藤秋弘君） それでは質問させていただきます。

質問の要旨は、小・中学校のエアコン整備についてでございます。

学校の施設整備について、校舎の耐震工事は順次進められ安堵しておりますが、昨年と同様にことしも猛暑日が続き、体力のないお年寄りや子どもが熱中症にかかり病院に搬送され、とうとい命をなくされた方もおります。この夏、市内の小・中学校で熱中症にかかり、病院

もしくは学校の保健室等で治療・手当てを受けた子どもは何名いますか。もう異常気象では済まされないこの猛暑に対策を講じ、児童・生徒が快適に勉学できる環境整備が必要であると考えます。

市内の小・中学校でエアコンを各教室に完備されているのは2校のみで、他の学校では、猛暑の中、小さな扇風機で涼をとり授業を受けているという、一昔も前の姿でございます。現在はたまにしか使用しない我々の自治会の集会所でさえ、そしてほとんどの児童・生徒は家に帰ればエアコンは完備されております。それが学校に来るとそうでなく、汗をふきながら辛抱する、そんな環境で勉学に励めと言えるでしょうか。全教室のエアコン整備には多額の費用を要することは承知しておりますが、将来の海津市を担う子どもたちのため、他の事業より優先して実施すべきと思います。一、二年での完備は無理としても、年次計画を立て整備していただきたいと思えます。このことについて市長の見解をお伺いいたします。

○議長（松岡光義君） 伊藤秋弘君の質問に対する市長の答弁を求めます。

市長 松永清彦君。

〔市長 松永清彦君 登壇〕

○市長（松永清彦君） 伊藤秋弘議員の小・中学校のエアコン整備についての御質問にお答えします。

ことしも猛暑日が続き、子どもたちを初め熱中症の心配が絶えませんでした。この夏、気分が悪くなり病院にかかった子どもは、市内の小・中学校14校のうち、小学校1名、中学校10名でございます。保健室で治療・手当てを受けた子どもは、小学校1名、中学校51名でございます。

中学校に多いのは、土・日における部活動での症状であり、気分が悪くなったとのことであります。各学校においては、その対策として、日常では全員にお茶を持たせ、こまめに水分補給をさせたり、朝御飯をしっかりとらせて体調管理をするよう家庭に依頼したりしております。また、教室の扇風機での換気や部活動の練習時、試合時などの塩あめや梅干し等の準備も心がけています。さらに、今後、運動会に向けては、テントを立てて日陰で休息をとりながら練習するよう考えています。これからもしばらくの間暑い夏の日があると思えますので、体調管理には十分気をつけてほしいと思えます。

さて、市内の小・中学校で普通教室にエアコンが整備されているのは、現在、小学校で4校です。それぞれ校舎改築時や暖房機器の取りかえ時に国の補助の採択を得、整備を行ってまいりました。近隣市町の小・中学校の普通教室ではエアコンがほとんど設置されていませんが、県内の普及率は4.4%であり、市内では25.7%となっています。普及が進んでいないのは、最も暑い夏を避けるために学校を夏休みとしていることがあるからと考えられます。しかしながら、伊藤議員が申されますように、近年の夏の猛暑は厳しいものがあり、夏休み

の前後の時期に教室内が高温になることがこれからも予想されます。また、子どもたちのほとんどの家庭においてエアコンが設置されていると思われ、この教室の温熱環境の悪化は子どもたちにとって学習への集中力や体調の維持に大変なことと思います。

このようなことから空調設備の整備は喫緊の課題と考えていますが、整備には多額の費用がかかりますので、国の補助金等、財源確保に努め、できるだけ早い時期にすべての小・中学校に完備できるよう取り組んでいきたいと思っています。

また、海津っ子議会において子どもたちの質問にお答えいたしましたように、中学校の音楽教室の空調設備については先行して整備を行っていきたいと思っています。

以上、伊藤秋弘議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

〔1番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 伊藤秋弘君。

○1番（伊藤秋弘君） ただいまの答弁で4校と市長はおっしゃいましたが、私が以前調べたときには2校でございました。この2校につきましては本年度設置されたのでしょうか、お尋ねします。

○議長（松岡光義君） 教育委員会事務局長 三木孝典君。

○教育委員会事務局長（三木孝典君） 失礼いたします。

従来の石津小学校、西江小学校に加えまして、本年度、暖房機器の故障が頻発するということから、大江小学校、吉里小学校でも整備をいたしておりますので、よろしく願いしたいと思います。以上です。

〔1番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 伊藤秋弘君。

○1番（伊藤秋弘君） それではお尋ねします。この2校につきまして、整備した事業費、それと補助額を教えてください。

○議長（松岡光義君） 教育委員会 岡田健治君。

○教育委員会施設課長併総務部課長（岡田健治君） 失礼します。それではお答えをさせていただきます。

吉里小学校の空調機の改修工事の工事契約金額でございますが、2,310万円でございます。これに係る国庫補助の額でございますが、852万8,000円。続きまして、大江小学校の空調機改修工事の契約金額でございますか、2,625万円、これに係ります国庫補助の額でございますが、949万8,000円でございます。以上です。

〔1番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 伊藤秋弘君。

○1番（伊藤秋弘君） ありがとうございます。

先ほどからお聞きしております国の補助金をいただいて整備すると、こんなわずかな補助金を待たずでも、単費で毎年1校ずつ、たかが2,000万円で整備できるなら、今度の補正予算でも上がっておりますが、どこでしたか、小学校の駐車場の用地買収で2,100万円程度、これ単費で出費されるわけでしょう。であれば、駐車場をやめて、1つずつ小学校、中学校を整備してください。その点についてお考えを伺います。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 先ほど海西のほうのというお話がございましたが、あれは海西保育園の駐車場でございまして、賃貸をいたしております。ですから、持ち主の方が売却したいということで購入を決めてやっているものでございまして、従来より賃貸はできるだけ避けるようにと議会の議員からも御指導いただいておりますので、買い求めるものでありますので、御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

そして、伊藤議員さんのおっしゃる積極的にやれと、このことは私もそのように思っております。できるだけ早い時期にすべての小学校に完備できるよう取り組んでいきたいと、こういう御答弁をさせていただいておりますので、よろしく御理解のほどお願い申し上げます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

○1番（伊藤秋弘君） ありません。

○議長（松岡光義君） これで伊藤秋弘君の一般質問を終わります。

○議長（松岡光義君） ここでしばらく休憩をいたします。10時35分まで休憩いたします。

（午前10時22分）

○議長（松岡光義君） それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前10時36分）

◇ 飯 田 洋 君

○議長（松岡光義君） 続きまして、13番 飯田洋君の質問を許可します。

〔13番 飯田洋君 登壇〕

○13番（飯田 洋君） 議長のお許しを得まして、私は統合庁舎駐車場の計画についてお尋ねをいたします。

現在の計画によりますと、統合庁舎での勤務職員数は275名、公用車は62台となっております。これに対し、計画図面上では車庫に収容できる台数が12台、野天の駐車場が154台、

合計166台の収容能力が示されております。

これに対し、今回調査を依頼し、入手しました資料によりますと、現職員の通勤車両台数は海津庁舎84台、南濃庁舎108台、平田庁舎80台、合計272台であります。現計画の166台の収容スペースから公用車分62台を差し引きますと職員用は104台分しかありません。南濃庁舎・平田庁舎の職員は勤務地が変わっても、ほとんど自家用車で通勤、その台数は変わらないと思います。そうしますと、272台から104台を引きますと168台分の駐車場が不足し、新たな駐車場の確保が必要になります。

先の一般質問で「十分な駐車場が確保されていない状況なので、武道館南側テニスコートを駐車場確保の候補地として代替施設の整備も含め検討を進める。」、検討の進捗状況については、「庁舎統合後の空き地スペースなどを利用し、整備したい。」と答弁されております。計画通りテニスコートの転用可能面積は約2,900平方メートル、これを駐車場にしますと約110台分の駐車場が確保出来ます。しかし、まだ58台前後の台数分、約1,400平方メートルが不足します。これは図面上の配置図を参考に割り出した大まかな数字ですが、この不足分については、他に用地を求められるのか、先ず、この点についてお尋ねをいたします。

次に、資料によりますと、現在、3庁舎の来客用の駐車場については、海津庁舎では168台分あります。通常日の平均駐車台数は30台前後、イベント等特別な行事を除いて満杯になるのは日新中学校のPTA行事があるとき等の年間2～3回です。

南濃庁舎においては105台分あります。平均駐車台数は30台前後、満杯になるのは年間28回程度であります。

また、平田庁舎では32台分あります。平均駐車台数は10台前後、満杯になるのは年間20回程度であります。

統合庁舎になれば、通常日の来客用駐車場の平均駐車台数は3庁舎分合計しますと70台前後となります。計画図面上の来客用駐車場150台の半分近くが絶えず埋まることとなります。各課で会議開催日を調整しても、これまででも所管事務が異なっている数値ですから余り変わりはないと思います。また、職員駐車場の車の動きは退庁時は分散しますが、登庁時には現在の倍以上の車が約30分の間に殺到いたします。また、その車のほとんどが登庁後一日中駐車場直近を動きません。

そこで、私はこの際、職員の駐車場を他に大幅にもとめ、現在計画中の庁舎北側にも来客用の駐車場設置の変更を提案いたします。現在でも市民の方は駐車した位置から近い東通用口を利用される方があります。市民にも利用しやすいよう、北側あるいは東からも庁舎敷地内へ進入し、庁舎直近に駐車できるよう、車の流れ・動線の変更を提案いたします。

将来的には東出入口、将来は東玄関になろうかと思いますが、現在の東通用口、この利用が「近い・便利」さから自然と人の流れ・動線が出来てしまうと思います。自分が駐車した

位置から1番近い出入口を利用するようになっていくと思います。

人の出入りが多くなれば、防犯上の問題やら、相当の設備等も必要になってくると思いますので、今からあらゆる面を想定し、市民に使い勝手で利用しやすい庁舎になるようお願いしたいと思います。

庁舎北側に来客用駐車場の設置を、及び車の流れ・動線の変更についてお尋ねをいたします。

○議長（松岡光義君） 飯田洋君の質問に対する市長の答弁を求めます。

市長 松永清彦君。

〔市長 松永清彦君 登壇〕

○市長（松永清彦君） 飯田洋議員の統合庁舎の駐車場についての御質問にお答えします。

1点目の駐車場の不足分については、他に用地を求めめるのかですが、議員が申されますように、現段階では十分な駐車場が確保されていない状況であり、武道館南側テニスコートを駐車場確保の候補地の一つとして代替施設の整備も含め検討を進めておりますが、それでもまだ不足している状況であります。

平成21年度に統合庁舎整備事業の敷地の一部として、現在職員駐車場として利用しております海津庁舎北側の用地1,918平方メートルを取得いたしました。新たな用地の取得は困難な状況にあります。

来庁者の駐車場は統合庁舎の近くに優先的に確保する必要があるため、職員の駐車場の不足分につきましては、近隣の市有地や文化センター等、他の公共施設の駐車場の利用状況を検討しながら確保してまいりたいと存じます。

2点目の庁舎北側に来客用駐車場の設置を、及び車の流れ・動線の変更についてですが、来庁者の統合庁舎の出入り口としては南側の正面玄関が主な出入り口となりますが、現在の海津庁舎の正面玄関西側も統合庁舎の既存庁舎部分への出入り口として機能します。

したがって、通常時には南側の来庁者駐車場168台分でそれぞれの出入り口近くで来庁者の車の動線、駐車スペースを確保することができると存じます。

議員御指摘のとおり、イベント等特別の行事がある場合で、南側の来庁者駐車場だけでは来庁者の駐車スペースを確保できないときは、北側職員駐車場を来庁者駐車場として一時的に使用することは想定されますが、通常時は来庁者の駐車場は南側の来庁者駐車場に対応してまいりたいと存じます。

以上、飯田洋議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

〔13番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 飯田洋君。

○13番（飯田 洋君） 代替駐車場、足りない部分は今の御答弁で、テニスコートの駐車場での変更は以前からお聞きしておるんですけども、愛好者の方から非常に心配の声が上がっておりますけれども、早期のこの代替施設での計画を一つお示しいただきたい、そのような愛好者の声もありますので、よろしくお聞きをしたいと思います。

先ほど、今の北側の駐車場、庁舎直近へのその動線の見通しについてもお聞きをしましたんですけども、1つお聞きをしたいのですが、非常に駐車場の用地の確保というのはお金もかかりますんですけど、1点お聞きをしたいのは、この駐車場取得につきまして、特例債の適用があるのかどうかということを財政面の面から1点、お聞きをしたいと思います。

それから、関連しまして合併特例債の発行の期限が被災地に限って5年間延長の特例法が成立しましたんですけども、その際に、総務大臣のほうから被災地以外については附帯意見もあるのでよく検討した上で、必要であれば秋の臨時国会に政府案として提案したい、そのような記事が載っておりましたんですけども、現状での情報といたしますか、見通しにつきまして、財政面の面からこの駐車場の用地の確保について合併特例債の適用があるか、その2点についてお尋ねをいたします。

○議長（松岡光義君） 財政課長 服部尚美君。

○総務部財政課長（服部尚美君） 失礼いたします。

まず、1点目の駐車場の用地取得に対しまして合併特例債の適用があるかどうかの御質問でございますが、統合庁舎整備事業の土地ということでは合併特例債の適用もありますが、単独の駐車場取得整備事業といたしましては困難なというふうな状況であります。

また、2点目の合併特例債の最終期限であります平成26年度でございますが、被災市町村につきましては、5年間の期限延長が認められておりますが、海津市もそうでございますが、それ以外の合併市町村につきましては、ただいま飯田議員さんが発言された情報と同じことしか現在は把握しておりません。

以上でございます。

[13番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 飯田洋君。

○13番（飯田 洋君） もう1点、今の代替施設でテニスコートですが、その横に野球場がございますが、一部野球場の改修等の件も耳にいたしましたんですけども、野球場の広さについてちょっとお尋ねをしたいんですけども、現在この野球場というのは、通常広さには基準があるんですけども、大体105メートル四角といたしますか、ホームベースから外野の一番先までが基準によりますと97メートルと、さらに両サイドの余裕地の18メートルを足しますと、大体105メートルの真四角の土地が必要になるんですけども、現在のこの庁舎前の野球場の広さというのはそういった面積基準から余裕があるのか、その点について、若干、駐車場

との関連でお聞きしたいんですが、お願いいたします。

○議長（松岡光義君） 財政課長 服部尚美君。

○総務部財政課長（服部尚美君） 失礼いたします。

申しわけございませんが、グラウンドの寸法につきましては今把握しておりませんので、後ほど調べまして御報告させていただきたいと思います。

〔13番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 飯田洋君。

○13番（飯田 洋君） ひょっとしたらテニスコート等の改修に含めて野球場のほうに食い込んでいかないかと、そんなことも思いましたのでちょっと質問させていただきました。

次に、これ、仮定で申しわけないんですが、仮に合併特例債発行の期限が延長された場合ですね。震災以外の海津市等の場合、市長さんの頭の中にはその延長線上に現在の事業計画に変更が浮かんでおるのか、その点だけお聞きをしたいと思います。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 政府がこの9月にかわられたばかりでございまして、今後、先ほど検討されていたことがどのようになるかもちょっとまだわからない状況下でございます。

したがいまして、私自身といたしましては、海津市になりましてから必要最低限の合併特例債の使用にとどめたいと、このように思っておりますので、5年延びたから新しく新たに合併特例債より使うという計画は今のところ持っておりません。

市になりまして合併のときにいろんなことを御指導いただいております、こういったことをやりなさい、ああいったことをやりなさいと。それに向けまして大体方向づけができてきておりまして、最後、この庁舎の建設ができれば大体これで一段落。施設につきましてですねとっておりまして、それからはソフト、そちらのほうで元気な海津市、そういったものを求めていくべきであろうと、このように存じております。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

○13番（飯田 洋君） はい、ありません。

○議長（松岡光義君） これで飯田洋君の一般質問を終わります。

◇ 堀 田 みつ子 君

○議長（松岡光義君） 続きまして、8番 堀田みつ子君の質問を許可します。

〔8番 堀田みつ子君 登壇〕

○8番（堀田みつ子君） それでは、議長の許可を得ましたので、私から3点にわたってお尋ねいたします。

まず1点目です。介護保険法が6月15日の参議院本会議で、日本共産党、社民党は反対し

ましたけれども、賛成多数で改定されました。

今回、大きく変更されるのは要支援と認定された場合に、市町村の判断で介護保険給付とするのか、市町村任せの介護予防・日常生活支援総合事業になるのかという介護のあり方があります。保険給付のサービスと異なり、総合事業にはサービスの質を保障する法令上の基準がないため、費用を減らすため、生活援助やデイサービスをボランティアに任せるなどの自体もありえます。高齢者にとって保険料はとられるのに利用は期待できないということにならないかが心配されるところです。

そこで、要支援と認定された高齢者にはすべて介護保険でのサービスを続けていただきたい。

また、医療専門職が担うべき医療行為を介護職員に押し付けることも盛り込まれています。安全性は確保できるのか、自己の責任は誰が負うのかなど、業務の負担のみが重くなり、介護職員の確保が難しくなるのではありませんか、市の考え方をお聞かせください。

2点目に、城山小学校附属幼稚園が入園者の減少で休園となっています。若手職員で今後どのような幼稚園をつくり上げていくのかを検討していくとお聞きしていますが、検討内容はどうなっていますでしょうか。

また、子ども・子育て新システムについての現時点での内容と市に及ぼす影響、また、それをどのように評価しておられるのか、お聞かせください。

3点目には、6月の定例会でも原子力発電所についてお尋ねしました。またかと言われまされども、そのときよりも農産物などの放射能汚染や風評被害などは事態、一層悪化しています。6月時点と認識は変わって見えませんか。

以上の3点についてお尋ねします。

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君の質問に対する市長及び教育長の答弁を求めます。

初めに、市長 松永清彦君。

〔市長 松永清彦君 登壇〕

○市長（松永清彦君） 堀田みつ子議員の介護保険についての御質問にお答えします。

1点目の来年の介護保険法の改正に伴い、要支援と認定された高齢者にはすべて介護保険サービスを続けていただきたいとの要望ですが、御指摘の介護予防・日常生活支援総合事業は、要支援1・2の対象者への予防給付サービス、2次予防対象者への介護予防事業を総合的かつ一体的に行うことができるよう新たに創設される事業です。

この事業では、これまで保険給付外で行われていた地域支援事業のサービス、介護予防事業や配食見守り等サービス、権利擁護等を市町村が主体となり、総合的で多様なサービスとして提供することが可能になります。

市が介護予防・日常生活支援総合事業を実施するかどうかは、現時点ではこの事業について

てはイメージだけで具体的な内容が示されていないため未定ではありますが、サービス利用者にとってより質の高い必要なサービスがふえるなら今後検討していきたいと考えております。

2点目の医療専門職が担うべき医療行為を介護職員に押し付け、安全性は確保できるのか。事故の責任は誰が負うのか、市の考え方はとのお尋ねですが、現在はたんの吸引・経管栄養等は医療行為に該当し、医師法等により医師、看護職員のみが実施可能となっており、介護保険法の改正で介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員等は、一定の条件下のもとにたんの吸引等の医療行為を実施できるとのことです。

いずれにしましても、医師の指示のもとに行われるとのことであり、現時点では介護職員に押しつけるものではないと考えますが、制度上行われることであり、市として行為の是非について判断すべきことではないと思われまので、御理解をいただきたいと思います。

次に、就学前の保育・幼児教育についての御質問にお答えします。

海津市では幼児教育・保育検討委員会の検討結果を尊重しながら、その基本目標の実現に向け努めています。

市内の就学前の子どもに関する教育・保育は義務教育でないこともあり、各町合併以前の状態のままでした。地域ごとの差を解消する方法の一つとして、今年度県下初の公立の認定こども園となる高須・今尾・石津認定こども園を開園いたしました。このことにより、保護者にとっては子育ての選択肢が拡大され、多様な教育・保育が提供されることになりました。

なお、詳細につきましては、教育長より答弁をさせます。

○議長（松岡光義君） 次に、教育長 横井信雄君。

〔教育長 横井信雄君 登壇〕

○教育長（横井信雄君） まず、堀田みつ子議員の幼稚園のあり方の検討内容の御質問にお答えいたします。

今年度城山小学校附属幼稚園は入園希望者がなく、結果、休園となりました。

しかし、平成24年度は他園と同じように募集を行います。保護者の方には希望する園を選択していただくこととなりますので御理解ください。

平成20年度幼児教育保育検討結果報告にありますように、下多度幼稚園と城山幼稚園は経過措置として平成25年度まで存続します。今後、子どもの成長に必要な集団規模の適正化も加味し、海津市の保育及び幼児教育を考えてまいりたいと思います。

なお、現在、海津市保育協会では年齢部会を設けて、年齢に応じた保育及び幼児教育を検討しています。また、幼児教育保育研究会では各園校代表者による保幼小の連携研究を行っております。こうした研究を通じ、海津市の保育及び幼児教育の充実を図っています。

続きまして、子ども・子育て新システムについて、現時点での内容と市に及ぼす影響です。法案の提出は平成24年1月の通常国会になる見込みとのことですので、現時点の情報をもと

にお答えいたします。

主に就学前の幼児教育・保育に関し、これまでの保育所入所基準を撤廃し、契約による幼保一体的給付が創設され、幅広い事業者の参入を図ることを進めるとされております。利用者の負担に対する考え方や方法についてはまだ不明でございます。財源についてですが、地方の具体的な負担については明らかになっておりません。安定的な恒久財源を確保するとともに、市に一方的な負担を課すことのないよう適正な財源配分を行っていただきたいと思っております。また、法案成立から施行までの間に十分かつ適切な準備期間を確保していただくことも必要だと考えております。

まだ法案も提出されていけませんので評価はできませんが、今後、国等の動向を注視しながら対応していきたいと思っております。

以上、堀田みつ子議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 次に、市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 次に、原発についてのその後の認識はの御質問にお答えします。

原子力発電につきましては、福島第一原子力発電所の事故に伴い、農産物などの放射能汚染や風評被害あるいはシンポジウム等の参加者動員や賛成意見の表明依頼など、やらせ問題が表面化しました。

原子力発電の認識につきましては、私は前回の一般質問で回答させていただきましたように、現在のエネルギー事情をかんがみますと、今すぐ原子力発電から撤退することは困難と考えております。そのために、特に原子力発電から撤退を求める発言をすることを考えていないことには変わりはありませんけれども、前回述べさせていただきましたように、原子力発電に対する安全対策、情報提供に関しましては十分な対策をとっていただくよう強く要請していきたいと思っております。

以上、堀田みつ子議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

[8 番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） すみません、それでは、介護保険について、ちょっとサービス利用者にとってよくなればというふうなことも言われました。実際に、本当に高齢者の方が健やかに生活していただけるということを願っております。そこで、利用者のサービスが下がらないようにというふうなことからいえば、今要支援なんかでも要介護者に準じてのサービス利用料1割でございます。

今後、このサービス利用が多様になってきて、その利用料というのがそれ以上にならないようにということだけは、ぜひとも今そのことだけはぜひきちんとお答えしていただきたい

など、これはもう市長の腹ひとつというか、そういうところですので、ぜひともそのことについてはお答え願いたいと思います。まず、そのことだけをちょっとお聞かせ願いたいと思いますが。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 先ほど申し上げましたけれども、現時点ではこの事業については、今イメージだけで具体的な内容が示されておられません。

したがいまして、今後、どのように明示されてくるのか、それをしっかり見定めたいと思っております。

〔8番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） それこそイメージだけというよりも、今のサービスを低下させない、そしてそれ以上の利用料を取らない、そのことだけでも言っていただけるのではないかなど期待しておりましたけれども、よろしく願いいたします。

それと、医師の、これもまだはっきりしないからというふうで注視していくみたいなことを言われましたけれども、見守っていくというふうに言われましたけれども、医師の指導というのは老人保健施設は施設長が医師でありますので、指導とか、そういうことは可能でしょうが、それ以外、特別養護老人ホームであるとか、ホームヘルプサービス、それこそ在宅介護に行かれるサービスの方はどうしていくのかというのがいま一步不安なんですけれども、こういうことも可能であるというふうですので、やらないという選択もないんでしょうか。その部分だけちょっとお願いします。

○議長（松岡光義君） 市民福祉部長 木村元康君。

○市民福祉部長（木村元康君） 制度上行われることですので、当然、事故等が生じないように、そしてまたサービスを受けられる方々に御迷惑等にならないように、そういったことに注意しながら、その事業への取り組みは詳細部分が示されてきましたら決めていきたいと思っております。

〔8番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） なかなか詳細部分が見えてこないとわからないというふうには言われますけれども、ぜひとも安全とその部分をしっかりと見届けていただきたいというふうに思っております。

次に、保育と幼児教育の部分についてお尋ねしたいと思うんですけれども、たしか城山小学校附属幼稚園、これに関しては、何とかあそこの施設、本当に新しいですし、なかなか気持ちのよい場所でございますので、それを何とかここを保育なり何か、幼稚園なり新しく考

えられたらというようなことをたしか前年度のときに考えていく、検討していくということを職員の方に言ってあるというふうにお聞きしているんですけども、全くただ募集を普通と同じようにするよというだけのお答えだったので、じゃ、全然そういうところ辺は検討していないのかなというふうに思うんですけども、これは全然検討はされていないんですか。

ただ、もうこの25年までで終わっちゃうよ、ここはなくしちゃうよ。本当にそれこそ地域で、地元で、子どもたちが周りの方に見守られながらはぐくまれるということが。確かに保育園はあるでしょう、でも幼稚園としてあるかどうかというふうなことはもう考えられないということですか。

○議長（松岡光義君） 教育長 横井信雄君。

○教育長（横井信雄君） ことしから、今年度から3年間は経過措置というふうなことで同じような募集をかけていきます。それで、その後につきましては3年たつまでにどうやっていこうかというようなことで結論を出していきたいと、そういうふうに思っております。

現在、幼稚園として使用されておりましたが、聞くところによりますと、最初は3名の入園希望者があったんだけど、辞退されたというふうなことで休園というようなことに今年度はなっておるようでございますが、現在、施設が今おっしゃいましたように、非常に新しくいい施設ですので、隣接する小学校が少人数学級等、1学級を2学級に分けて授業を行うというふうなときに使う場所として利用しているというのが現状でございます。

〔8番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） 3年間の経過措置というふうな中で、早目に経過措置の期間中にそれこそもう今にも、もうある程度検討していただかないと、はっきり言ったら、もうそのときに、今回3名で辞退されたというふうに言われましたけれども、それこそまた同じようなことが繰り返されてしまうんじゃないかというふうなことを心配するわけでありまして。せっかくの施設ですので、あそこを何とか継続するなりということを考えて、もっと早目に検討してください。

それと、子ども・子育て新システムについて少々お伺いするんですけども、これは政府のほうで、これはもうある程度形を、途中経過がもう出てきたくらいですので、このまま簡単にいってしまうと、本当にもう決まってきたところがあるんですけども、こうした実際のところ一番の問題点は、今先ほど直接契約という言葉が使われましたけれども、市のほうの役割というのは本当のところ、もう勝手にやればいいよというふうな状態になるということでしょうか、もう一度お願いします。

○議長（松岡光義君） 教育委員会事務局長 三木孝典君。

○教育委員会事務局長（三木孝典君） 失礼をいたします。

子ども・子育て新システムにつきましては、たしか議会のほうでも請願が出されて、時期尚早との結論が出ておるようでございますけれども、本制度につきましては、先ほど教育長が説明しましたように、平成23年度国会への法案提出あるいは25年度からの施行を目指して議論が行われておるところでございますし、そのことを注視してまいりたいと思いますし、今後、市民の皆様には正確な情報を提供してまいりたいというふうに考えております。

現時点においては、例えばこのシステムの中には子ども手当の関係部分もございますようでございますし、そういった格好で来年度法案が提出されるようでございますので、その経過を見きわめながら、また今後とも御協力を求めていこうというふうに考えております。

以上でございます。

[8番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） すみません、この法案、まだ来年度提出されるというだけであって、注視していくとしか言われません。閣議決定もされているようなものというのは今までだって、いろいろ問題がある、これはもう問題があるからというふうでされてきた法案でも結構通ってきているんですよ。

でも、今市長にちょっとお尋ねするんですけれども、こうしたそれぞれの市民、実際に子どもたちが不利益になるようなことに対して、例えば政府にこんなことをやってもらっては困るであるとか、それとか、そういうことを声にしていただけないのでしょうか。

それともう一つ、声にしていただきたいなというふうに思うのは、たまたま前回の請願のことをちょっとお話をさせていただいたときに、自民党の保育のそういう連盟でさえもこの新システムに反対しているというふうにお聞きしていますので、そういうことに対する、ただ、私は紹介しただけですので、市長の意見なり、どう思ってみえるのかというのは聞いていませんでしたので、とりあえずそういうことに対しての御意見なり、教育長もですけれども、どういうことが本当に子どもたちを守っていくためにできるかということを考えてみえるのか、少しお聞かせください。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 堀田先生の子どもたちにとって不利益になる、これはどういうことを考えておられるのでしょうか。少し御教授を願いたいと思います。

[8番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） すみません。大体そうやって聞いていただけたというふうなことがあったので、1つこの後に聞こうかなと思っていただけるとは、今、この海津市で保育料の滞納とかというのはありますでしょうか。その辺を大体金額というのはちょっとそれなりに決算

のところで収入未済額というふうで240万円強というふうなことがありますし、保育料の滞納。それとともに、繰越分でもなおかつ100万円ぐらいの滞納というのがあるんですね。そういうところで人数はどれくらいなのでしょうかね。それをちょっとお願いします。

○議長（松岡光義君） こども課長 菱田一義君。

○教育委員会こども課長（菱田一義君） 失礼します。

今議員さんがおっしゃったとおり、全部で平成22年度の決算で346万4,950円の滞納繰り越しがございまして、51人分でございます。それで、調定額で割りますと約2%、そして人数で約5%でございまして、それ以後23年度中に収納しまして、現在は19人でございます。

以上です。

〔8番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） でも、この後、最後までこの23年度が終わったら、同様な人数になってくるのではないかなと推測されるわけですがけれども、たった19人ではあるんですけども、そうした滞納をされている方は、今は市のほうで保育料をいただいて、そして措置をそれぞれの保育園にします。だから、別にやめてくださいとか、もう来なくてもいいよとか、そんな困ったとかというふうなことはないと思うんですけども、今後、この実際のところ、契約というふうで、市はただ、あなたはこんだけの時間が保育が足りませんよという認定するだけというふうにお聞きしていますので、直接保育園と契約することになりますよね。そうすると、実際のところ、収入が入ってこなきゃ、保育園だって困るじゃないですか、はっきり言って。

そういう中で、じゃ、そういう滞納する子、いいですよ、まだここら辺、人情味があるかもしれないし、そういう言いながらも額とかいろんなことを考えていったら、退所していただけないかというふうに言わざるを得なくなりませんか。そういうことを懸念しているわけです。だからこそ、ぜひとも市長、こういうシステム、公の自治体なり、そういう私たちに責任を負わせてくださいというふうにやっぱり国に言っていただけないでしょうか。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 堀田議員の御意見は理解できましたが、ケースバイケースでいろんなケースがあるだろうと、それは思います。子どもの不利益になるようなことに関しましては、それは全国市長会を通じてまた意見を申し上げていきたいと思っておりますが、先生も御存じのように、それぞれのバック、背景、それは異なっているだろうと、このように思います。

したがいまして、全般的に子どもに不利益なことに関しては、そういうような制度の話になれば、それは市長会を通じて国のほうに意見を具申していきたいと、このように思います。

[8 番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） 今、そういう全般的なと言われましたけれども、じゃ、この新システムの中身としては、それこそ介護保険制度に準ずるような形のやり方にしていくというふうなことが言われております。

そういうことになると、今介護保険の中でサービスが多くなって、それを受けるために保険料が高くなりますよと、それは当然でしょうというふうな言われ方をしました。これと同じようなことがやっぱり保育料のほうにかかってくるんじゃないですか。そうやって、それぞれ自治体が責任を持たずに、じゃ、払える方はいいですよ、もう払える方は幾らでも高くしていく。でも、払えないときには、ある程度のサービスはこの程度でいいじゃないですかというふうな形になってきませんか。それをちょっと心配するんです。その点についても、ぜひともそういうところも考えていただいて、それこそ職員の人はこういうことにもう決まったら、やらなくちゃいけないんだけど、でも、首長である市長は、本当に子どもにとってどうなのかということも踏まえてお願いしたいと思います。

次に、ちょっと原発について何でこう聞くかという、ああ、やっぱり、変わらないんだなというふうなことは、ちょっとたまたま講演会を、要はこれも、何しろどなたを呼ぶかというのは当然市の考え方が入ってくるというふうに思っていたもので、最初はこの講演の武田氏のことを余りはっきりわかっていなかったんですけども、何しろこういう立場ということなんですよ。武田氏の言っている、要は安全だったら原発もいいよと。前からそれは言われてきたことですので、要はこの講演の、ずっとほかのテレビとかいろんなことで言われている、そういうのを認めた上でこの方を呼んだというふうに考えてよろしいでしょうか。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 私が呼んだわけではありません。これは実は商工会のほうで大垣市さんやったかな、西濃で呼ぼうということだったようです。それが海津市でということになりました。それで、堀田先生にぜひ私はこういうことを申し上げたいと思います。海津市民を愚弄するようなことはやめてほしいと思います。海津市民はお話を聞いて、正常に、正確に判断される市民の皆さんだと私はこのように認識をいたしておりますので、そのところを御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

[8 番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） すみません。愚弄するとか、そういうふうなことではありません。

ただ、この方の言ってみえるということが方向から言うと、推進の方なんだなというふうに思いますもので、どうかなというふうにただ考えただけです。

それこそ、今大垣市の商工会ともそういう話が出てきましたけれども、たまたまばつと聞いて何かそのまま流されてしまっただけとはいえないなと思いつつも、ちょっとどうしてもメディアのほうで活躍というふうな、よく出てみえるから、そうなのかなというふうに思ってしまうのかなというのがちょっと心配だなというのだけでございますけれども、こういういろんなものでも、どういう観点で選ばれるのかというのがちょっとわからなかったものですから、ちょっとこの方の講演のことはお尋ねしました。

それこそ前にも海津市は農業を大事にするというふうなことを言ってみえたもので、今回本当に農産物、本当に何か自分がつくった農産物が売れないような状況であるとかということをお聞きするにつれて、やっぱり原発はないほうがいいというふうに特に感じたものですから、もうぜひとも、さらにいろんな情報も収集していただきながら、ぜひとも原発問題、もう少し踏み込んでいただけたらと思います。

○議長（松岡光義君） 副市長 後藤昌司君。

○副市長（後藤昌司君） 先ほどの講演会に対する御意見でございますが、貴重な意見として承っておきたいと思つてます。

ただし、少し誤解がございますので訂正をさせていただきたいと思つてますが、武田先生でございますが、政府の元原子力の安全委員会のメンバーでございますが、今はそうではございません。どんな経緯かわかりませんが、おやめになってみえてます。

当時は当然原発に対しましては推進派でございましたが、今現在、御本人のブログ等を御確認していただきたいと思つてますが、やっぱり閉鎖するべきだろうと、技術的に完全に確立されたときに、200年後に原発は再開すればいいんじゃないかということをおっしゃって見えていますので、今は慎重論派ではないかなというふうに思つております。

それと、多分9月4日のテレビ放映の件ではないかなと思つてますが、そういった件につきましては、今度の講演会の折に先生の本当の真意のところはきちっとお伺いをしていきたい、そして皆様方に公開をしていただいて、本当のいろんな原子力に対する現状とか、そういったことを政府の立場とは全く反対の今立場をとっておみえになります、正確な情報として皆様方にお伝えしていただいて、それぞれの立場で御判断をしていただきたいということで、今回、講演会を商工会と一緒に開催をさせていただいたということでございます。よろしくお願いをいたします。

〔8番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 堀田みつ子君。

○8番（堀田みつ子君） ありがとうございます。どうしても認識というか、たまたま参議院の参考人のところの話で言いますと、この方がたまたま、やっぱりだれだって安全だったらゴーというふうなことを、だれだってじゃないですね。大体多数が安全だったら、もう原発

いいよというふうに言ってきたのをこの方も今も同じようにやっぱり言われるものですから、この時期にこういうふうなことを考えてみえる人を呼ぶのかなというふうなことが一番ちょっとネックになったものですからお尋ねしたまでです。

本当に環境問題でもいろんなブログを見ましたけれども、ちょっと眉唾なところもあるかなというような、いま一步それこそ専門家じゃないですので、全部は何とも言えませんけれども、そういう部分で、やはりちょっとこれは質問の内容とは違いますけれども、これからも市が主催するようなそういうことには、それなりにきちんとどういう方かといういろんなインターネットであるとか、ブログであるとか何かというのをとりあえず見ていただければなど、きちんと確認していただいてというふうに思いますので、これは要望ですというところで終わらせていただきたいと思います。

○議長（松岡光義君） これで堀田みつ子君の一般質問を終わります。

◇ 水 谷 武 博 君

○議長（松岡光義君） 続きまして、12番 水谷武博君の質問を許可します。

〔12番 水谷武博君 登壇〕

○12番（水谷武博君） 議長から一般質問のお許しをいただきましたので、これから市長に一般質問をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

市民の方々から統合庁舎は建設するのか、しないのか、どうなってしまったのかとよく尋ねられます。私は、遅くとも来年度24年度でございしますが、計画通り海津庁舎を利用した東側に着工され、26年度には完成するものと市民の方々にはお答えを申し上げております。

ここで、松永市長に統合庁舎建設関連について、いくつかの質問をいたしますので、明快に御答弁をいただきたいと思います。

1つ目に、3月第1回定例会で市長は市財政の平準化という言葉で実施計画をも完了しておったにもかかわらず、1年延長されました。今、執行部では丁度来年度予算に向け、関係部署で予算編成に取りかかっておられるときだと思っておりますが、統合庁舎建設に向けた予算はどのようになっておりますでしょうか、お答えをいただきたいと思います。

市長は、23年度の施政方針の中で、又、他の議員の一般質問の答弁の中でも、26年度の完成を目指し、取り組んでいると公言をされております。当然その時期は合併特例債の最終年度にあたるので、市としては完成させなければ全額市の自己負担、いわゆる全部自主財源となり、市財政に悪影響を及ぼすことは必至だと思います。

ここで伺いをいたします。建設に要する費用の財源は中期財政計画での見通しはされておるのでしょうか。今一度、統合庁舎整備の財源は確保されているのか、その現状と見通しについて御回答を願いたいと思います。

次に、統合庁舎の実施設計が終えた後での東日本大震災という大きな災害が発生をいたしました。耐震への対応、建設計画の見直しをおこなうのかどうかも教えていただきたいと思っています。

最後になりますが、統合庁舎整備について、市長の諮問機関でありました審議会が答申した通り、又、当時の市議会の特別委員会も同意した通りの建設場所は海津庁舎を利用した増築で間違いありませんね。又、先の質問と重なると思いますが、建設費予算計上の時期、工事の発注及び完成時期についても市長のお考えを教えていただきたいと思っています。

こうした計画は、市長の考えを市民にはっきりと公の場で情報提供し、市民の理解をもらえるよう努力するのが市長そして私ども議員の公僕としての義務だと思っております。

再質問が不必要になるような明快な答弁を御期待し、一般質問を終わりたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（松岡光義君） 水谷武博君の質問に対する市長の答弁を求めます。

市長 松永清彦君。

〔市長 松永清彦君 登壇〕

○市長（松永清彦君） 水谷武博議員の統合庁舎整備についての御質問にお答えします。

1点目の統合庁舎建設に向けた予算はどのようになっているかですが、統合庁舎整備事業の着手については、財政状況を見きわめながら進めると申してきております。大規模事業に当たっては、予算の平準化を図る意味でも優先度を見きわめながら、教育施設整備を優先し取り組み、統合庁舎整備につきましては平成24年度着手といたしました。

したがいまして、平成24年度の予算編成について8月17日付で各部・局・課長に通知しておりますが、統合庁舎整備事業につきましては、平成26年度までの完成を目指し、平成24年度当初予算に計上する予定でございますので御理解を賜りたいと存じます。

2点目の統合庁舎整備費の財源は確保されているのか、その現況と見通しについてですが、統合庁舎整備事業の財源には公共施設整備基金と合併特例債を予定しておりますが、平成23年度から庁舎整備事業につきましては、標準面積及び標準単価に基づく事業費の取り扱いが廃止され、事業費の95%に合併特例債を充当でき、その70%が交付税に算入されることとなり、財政的には有利な状況となりました。当市の合併特例措置による平成26年度までの合併特例債の起債可能額は162億円であり、平成22年度末で借入額は約41億円であります。もちろん、起債可能額に対してできるだけ合併特例債は使わないようにしておりますが、海津市総合開発計画を基軸とした選択と集中による行政施策には合併特例債を充当してまいりたいと存じます。

また、平成23年4月に改定を行いました海津市中期財政計画におきましても、平成24年度から平成26年度の実施事業として統合庁舎整備事業を位置づけ、その財源は公共施設整備基

金と合併特例債を充当するとして計上しております。

3点目の耐震への対応、建設計画の見直しを行うのかですが、統合庁舎の建設計画は市長の諮問機関であります統合庁舎検討懇談会並びに市議会庁舎検討特別委員会におきます議論の結果を第一義として進めているものであります。中でも統合庁舎の位置については、海津郡3町合併協議会協定書に定める安全性を第一義として経済性、利便性を重要判断基準として検討がなされ、当時の安全性の議論の中ではアドバイザーである岐阜大学教授により、本市に被害が想定される大地震の発生に伴う揺れの分析をもとに議論が交わされ、検討の上位置決定がなされてきております。

本市は、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されております。近い将来、発生が予測される東海地震・東南海地震、またこの2つの地震が同時に発生するとも言われている複合型東海地震、さらには関ヶ原・養老断層系地震が発生した場合の海津庁舎での想定震度は、複合型東海地震で震度5強、関ヶ原・養老断層系地震で震度6強と言われております。統合庁舎は、本市の防災拠点として機能できる高い耐震性と市の財産として長期間使用できる高い耐久性を備えた施設とすることを目指し、耐震については官庁施設の総合耐震計画基準における耐震安全性を第1類とし、大地震動後、構造体の補修をすることなく使用できる庁舎として早期に防災活動が行えることを目標として人命の安全確保に加えて、十分な機能確保が図れる庁舎としております。

ただ、東日本大震災で非構造部材であります天井の落下事故が相次いだこともあり、構造計算で量が決まる壁や柱と異なる非構造部材等につきましては、国土交通省の指針の見直しにより対策を強化してまいりますので、統合庁舎建設計画に御理解を賜りたいと存じます。

最後の建設費予算計上の時期、工事の発注及び完成時期についてですが、先ほども申し上げましたとおり、統合庁舎整備事業の予算につきましては平成24年度当初予算に計上、予算議決後入札を実施し、6月定例会で契約の議決を賜りたいと存じます。

統合庁舎整備事業につきましては平成24年度から、平成25年度は統合庁舎増築部分の新築工事、平成26年度は既存庁舎の耐震補強・改修工事を実施し、平成26年度までの完成を予定しております。

以上、水谷武博議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

[12番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 水谷武博君。

○12番（水谷武博君） 私の考えでは本来一般質問は提案、いわゆる市の施策に対して自分の私案といいたいまいしょうか、提案するのが本来の一般質問の方法だろうと思っておりますが、きょうはあえて市長の言質をとるという一般質問の仕方をいたしました。そのところを市長よ

り質問事項に対しまして具体的に、かつ明快にお答えをいただきましたことは感謝を申し上げます。

それで、今市長の答弁を全部筆記したわけじゃございませんが、基本的には市長と私、同じ考えかなと総体的には思っております。

その中で、第1点目に質問しましたことにつきましてでございますけれども、第1点確認いたしますけれども、24年度予算編成で今計上をし、24年の3月定例会に提出をいたしますと、こういうことでございますですね。

それから2点目の中期財政計画を踏まえて、24年度から26年度、3年度事業として庁舎の整備を終え、いわゆる新築、そして今の旧庁舎の耐震補強を終えて、26年度中にはすべて完了いたしますと、こういう返事だと思いましたが、また私が間違っておったら、また御答弁を願いたいと思います。

そして、その中でここがお聞きしたいんですが、今制度が変わって、交付税率のはね返りでございます。制度が変わって70%が交付税ではね返ってきますと、こういうこともございました。それと、財源は、いわゆる公共施設整備基金と合併特例債と2つで充当しますと、こういうことございました。

そこで、お聞きをいたしますが、70%交付税ではね返ってくるというのは、いわゆる償還期限20年なのか、25年なのかあれでございますが、その期間ですね。70%がいつまでに戻ってくると、そしてもう一つは整備基金でございますけれども、どれぐらい3年度で、新築工事、増築工事、そして耐震補強等を合併特例債の対象にもなっておると思いますが、基金はどれぐらいお使いになるのかということもお尋ねしたいと思います。

それから、3点目の私の質問に対してございましたが、合併協議の協議会の協定書、そして市長の諮問機関でございました検討懇談会、そして市議会の特別委員会の議論の結果を第一主義として実行したいと、こういうことございました。それはおのずから場所はこの海津庁舎を利用し、この位置に建設するという回答でございました。

その中であえてお聞きをいたしますけれども、東海・東南海地震、そして関ヶ原・養老断層もここにはございます。そういうことも両方合わせ、震災の予測もされておりますが、第一義として皆さんの検討の結果どおりここに着工をいたしますと、こう私は解釈いたしました。それでよろしいということか、念のためにもう一度確認をさせていただきたいと思っております。

以上2点ほど、まず、合併特例債と基金のこと、そして場所がここでやるということも再確認になるかと思いますが、市長に大変失礼なことを申し上げておるのかもわかりませんが、きょうはこういう傍聴者も見えます。そしてテレビもあるということで、市長から明確にまた再度市民の方にわかりやすく御説明していただければ大変ありがたいと思います。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 先ほど御答弁申し上げましたように、場所はこの庁舎の東側、そして東海地震・南海地震あるいは関ヶ原・養老断層、震度6が来ましても支障なく事務ができる、そういう庁舎を目指して建設をしまいたいと思っております。

基金と合併特例債はどのぐらいの割合かということでございますが、合併特例債、じゃ、財政課長のほうから、それは後で御説明申し上げます。

それから、交付金がどれぐらい入ってくるかと、どれぐらいの期間で入ってくるかということでございますが、これはその借りました期間の間、交付金として入ってくるということでございます。例えば100億借りますと、その95億の70%、七五、三十五、七九、六十三ですから、6割6分5厘ですか、約3分の2が返ってくると、こういうことでございますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

数字的にはっきり申し上げなくてはいけないものにつきましては、財政課長の服部から申し上げます。

○議長（松岡光義君） 財政課長 服部尚美君。

○総務部財政課長（服部尚美君） 失礼いたします。

まず、合併特例債の関係でございますが、償還期間につきましては、借入先によっても異なるわけでございますが、仮に償還期間30年とした場合、その年度ごとの元利償還金の70%が交付税のほうで算入されます。

続きまして、概算事業費でございますが、増築工事で約18億円、耐震補強・改修工事で4億5,000万円、合わせて概算事業費は約22億5,000万円で、財源内訳といたしましては、財政計画では公共施設整備基金を8億円、合併特例債を14億5,000万円となっております。公共施設整備基金の平成22年度末の現在高は16億3,302万8,000円となっております。

以上、財政的なことにつきまして御説明させていただきました。

[12番議員挙手]

○議長（松岡光義君） 水谷武博君。

○12番（水谷武博君） ありがとうございます。

ここでお尋ねをしたいと思います。私が質問が間違っておったら御指摘をいただきたいと思っております。

先ほど言われましたように、70%は交付税ではね返ってくるということでございまして、先ほど3割が基金というか、自主財源ということに相なろうかと思っております。という、本来、庁舎は、私の知っている限りでは補助金は国の補助・県の補助というのは庁舎に対しては一切ゼロ、100%が自主財源でやらなきゃいけないという法律になっておると思っております。

ここでいい例を申し上げます。私ども先月8月29、30と徳川御三家附家老サミットで交流

されております茨城県の高萩市へ私ども議会の会派政和会で行ってまいりました。災害視察をしてまいりました。そのときに市長とも、議長とも懇談をさせていただきました。そのときに庁舎が今壊れております。今、文化会館かどこかに移転されております。私どもも行っ
てまいりました。あそこは平成合併は行っておりません。ということは、今さっき飯田議員
からも質問がございましたが、大変高萩市は海津市よりも不利だと思います。災害が起きて
庁舎を今建てたいんだけど、その財源に苦勞されている。いわゆる今いう東日本災害に
よって国で補助金制度が何割か出ることができればあれでございますけれども、今の法律だ
けでいきますと、もう全く、いわゆる災害ではもうまさに100%自己財源で庁舎をつくる
ということに相なりますが、私どもは平成合併でいたしましたんで、10年度というあれがござ
いますけれども、70%が交付税ではね返ってくるという恩典がございます。私はもうもう一
つ、今東日本災害のこれから復興が始まっていくと思いますけれども、建設資材、いわゆる
住宅資材等高騰も可能性があるのかな。1割高騰しても今言われたように、約22億5,000万
なら、本当に1割上がっても2億上がると、こういう単純計算でもなります。なるべく早く
着工してしていただいたほうがいいのかなと、こういう思いも私はいたしましたわけございま
して、先ほどいずれにしましても市長に明快なる御答弁をいただきました。市民の方にも市
長の考えがはっきり伝わったと思っております。きょうの私の一般質問の役目は、市民の方
に市長の考えがはっきりわかるようにというのが一般質問の役目でございます。市長に対
していろいろ真剣に御答弁をいただきましたことを感謝申し上げ、質問を終わりたいと思
いますが、ここで一言だけございます。リーダーとして、私があるテレビを見ておりましたら
3つあると、こういうことがございました。

まず1点は総合力、2番目に、これは私もびっくりしましたけれども、胆力という胆の力、
そして3番目に闘争力という3つを備え合わせたものが真のリーダーになり得るんだ、それ
が真のリーダーだと、こういうテレビでございましたけれども、これはすばらしい言葉だな
と思って、特に私は胆力という言葉初めて聞いたといひましようか、言葉を覚えたんで、
市長にも申し上げたいと思いますが、胆力とはものを恐れなくて勇気を持って、度強を持っ
てやれというのが胆力だと思います。

どうぞ海津市のリーダーとして3つを備えておられて、特に胆力を持って実行していただ
きたいと思っておりますので、要望をいたしまして私の一般質問を終了したいと思います。ありが
うございました。

○議長（松岡光義君） これで水谷武博君の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩をいたします。1時まで休憩をいたします。

（午前11時57分）

○議長（松岡光義君） それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後1時00分）

○議長（松岡光義君） その前に、午前中、六鹿議員の質問の答弁に一部訂正があるとのことですので、市長の発言を許可します。

市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 午前中、六鹿議員の御質問の中で、全国で介護保険のほうに繰り入れている団体はあるかという御質問がございました。

岐阜県のほうの確認はとれておりまして、全国でもないというふうに聞き及んでおったんですが、再度確認をさせていただきましたら、全国では50団体、繰り入れがなされているようでございます。おわびして、訂正をさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 訂正だけに、これはお願いして。

○5番（六鹿正規君） 訂正ではあのときのその後の質問内容は変わってくるわけよ。だから、今訂正で、私の質問が、じゃ、どうなるの、これは。違う、それ。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） それで岐阜県ではそういう指導はしていないということでございます。

したがいまして、海津市も制度上、制度の中でその介護保険の運営を図ってまいりたいと、このように思っておりますので、御理解のほどよろしくお願いを申し上げます。

○議長（松岡光義君） はい。

○5番（六鹿正規君） それはいかんて。あのときの質問は、あれば、じゃ、本市はどうなんだということになってくるんだから。

○議長（松岡光義君） ちょっと待ってください。

○5番（六鹿正規君） それは困る、そんなことは。訂正だけで、これはもう済まんよ。議長、一般質問やり直させてもらわないかん。

○議長（松岡光義君） なら、ちょっとしばらく休憩します。

（午後1時02分）

○議長（松岡光義君） それでは、休憩を解き、会議を開きます。

（午後1時20分）

○議長（松岡光義君） その前に、一応答弁する方はきちっと調べてから答弁していただくようお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

今、議会運営委員会を開きまして、いろいろ協議した結果、10分以内で質疑を認めるとい

うこととございますので、六鹿議員、今市長の返答に対しまして何かありましたら、一つ御質問お願いしたいと思います。

はい。

[5番議員挙手]

○5番（六鹿正規君） 早速の訂正、ありがとうございます。

今お聞きしたところ、全国で50団体あるというふうにお聞きしました。私ども県内では1つの団体もそういった行為をやっておらないと、こういったことに対して県内で一番にそういった繰り入れが難しいかと思えますけれども、一般会計から繰り入れのできるような体制をとっていただいて、皆さんに少しでも経費の負担、保険料の御負担にもつながればいいかなというふうに思えます。いろんな事情があろうかと思えますけれども、市長の答弁は結構でございますけれども、要望としてお願いをいたします。

○議長（松岡光義君） はい。それでは、今の答弁を終わります、このことに関しては。

◇ 川 瀬 厚 美 君

○議長（松岡光義君） 続きまして、9番 川瀬厚美君の質問を許可します。

[9番 川瀬厚美君 登壇]

○9番（川瀬厚美君） 市の防災体制についてということで、市長にお尋ねをしたいと思えます。

市の防災体制について。

本年3月11日、東日本を襲った未曾有の大災害、どこから発せられる言葉も「想定外であった」と、しかし、その中でも、常に最悪の事態を想定し、避難路を再三確認し、訓練を重ねていた岩手県沿岸部にある野田村の野田保育所は0歳児から6歳児94人全員の命を救った。このことは度々報道され、皆様ご存じのことと思えます。

昔から「備えあれば憂いなし」の言葉もあるが、もちろん絶対安心はあり得ない。しかし、出来得る限りの備え、体制は必要でありましょう。私たちの住むこの東海地方に於いても、東海・東南海地震が何時起きても不思議ではないといわれております。

当市も山有り、0m地帯有りと、あらゆる被害が想定されます。現在、我が市は防災係が消防本部に有りますが、何時起きるとも知れない災害、万一発生した場合、一刻を争う消防本部としてどのように動き、どのような体制を敷き、市民の安全を確保し、又、救出活動を行うか、お伺いをしたいと思います。

○議長（松岡光義君） 川瀬厚美君の質問に対する市長の答弁を求めます。

市長 松永清彦君。

[市長 松永清彦君 登壇]

○市長（松永清彦君） 川瀬厚美議員の本市の防災体制についての御質問にお答えいたします。

本市で万一地震の災害が発生した場合、消防本部としてどのように動き、どのような体制を敷き、市民の安全を確保し、救出活動を行うかでございますが、まず、災害発生時の市職員の初動対応でございます。

川瀬議員も御存じのとおり、地震発生の際、海津市職員初動マニュアルに規定されている市内の震度によって非常配備体制が決められております。

震度3で、関係部局職員2人による情報収集と連絡調整を行う準備体制とります。震度4で、同4人以上による警戒第1体制、震度5以上で、全職員が参集しての警戒第2体制とあわせて災害対策本部を自動設置することになっております。

以上のような非常配備の取り決めがございますので、地震が発生すれば、震度に応じて非番・公休の消防職員も勤務時間外であれば一般職員も、勤務部署への登庁行動が指示がなくとも開始されることになっております。

消防本部の場合は、24時間365日すき間のない交替勤務によって消防職員が常に待機状態でございますので、仮に地震による被害規模が大きく、また119番回線が不通になっていなければ、強い地震の揺れがおさまると同時に、火災、救助あるいは救急の緊急要請がひっきりなしになるものと推測されます。

平常時であれば通報順に消防隊等が出場すればよいのですが、このような非常時では限りある消防職員も、消防車両も効率的かつ効果的に活動するよう、通報内容のトリアージをできる限り速やかに行って、人命危険や災害の拡大危険が切迫していると思われる通報が優先されるようモードの切りかえが行われることになっております。

この第1次的な出場による災害対応中に、初動マニュアルに基づいて登庁行動を起こした職員が順次登庁し、消防隊等の編成が可能となった時点で、新たな隊が新たな災害事案に対応することを全職員が参集するまでに全消防車両が出場するまで繰り返し、災害に対応いたします。

消防長と防災担当職員は、災害対策本部への参集ということになっておりますので、被災規模によっては西濃地域内、県内、県外への広域的な緊急消防援助隊や自衛隊等の派遣要請などを災害対策本部で協議することにもなります。

また、一般職員についても、初動マニュアルによって勤務部署ごとに災害時の任務が分担されておりますので、消防職員と同様に、市民の安全確保や市民生活の維持のために専念することになります。

以上、川瀬厚美議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（松岡光義君） 再質問ございますか。

〔9番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 川瀬厚美君。

○9番（川瀬厚美君） 午前中、水谷議員のお話の中にもありましたけれども、8月29日、私も市長さんのお世話もあり、茨城県の高萩市へ参りました。

市内の案内の中で案内をしていただいたときに、当地の建設部長さんにお尋ねをしました。あのような大震災が突如として起きたとき、当市としてどのような課題、どのような反省がありますかというふうにお尋ねしました。その部長さんいわく、「初動体制の大切さ、それがどれだけできるかということである。私たちが精いっぱいそのように取り組んできたが、一から考え直さないかん。全市が一遍に停電になり、また携帯電話も通じない。職員の把握ができない。出ていった職員がどこにいるのか市内を把握するのに大変時間がかかった」と言われました。ですから、以前、私、全員協議会の場で防災が消防本部の中にあっというんですかとお尋ねしたんです。時の総務部長さんが「こちらから職員が行つとるで大丈夫だ」と言われました。

今、大丈夫という言葉はどこにも当てはまらないと思います。生まれて初めて体験した、想定外、そんな言葉があちこちの災害地から聞こえてまいります。今調べてみますと、防災はすべてどの市も市長部局にあり、すぐ万一に備えて一刻も猶予なく備えておりますが、当市が今まだ消防本部の中にあっ、防災係にあっ、対応におくれるのではないかと、そんな懸念をするわけでございます。消防本部の中にあっという理由をいま一度お聞きしたいと思っております。

○議長（松岡光義君） 市長 松永清彦君。

○市長（松永清彦君） 先ほど申し上げました第1警戒体制あるいは第2警戒体制、過日の台風12号に際しましては第1警戒体制をとりましたが、この庁舎の1階の大会議室、あそこにこの警戒体制の本部を置いて今やっております。

したがいまして、分かれておるからということがございますが、私としましては、今度新しい庁舎を増築しましたらば、そこに災害対策の部門を設けてやっていきたいと思っております。今は消防署の中にありますが、事に当たるに当たりましては、この本庁舎で進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

〔9番議員挙手〕

○議長（松岡光義君） 川瀬厚美君。

○9番（川瀬厚美君） 新しい庁舎ができてからと申されますけれども、災害は今起きるか、あす起きるかわかりません。また、消防本部として大地震が起きた場合、あちこちで火災が起きた場合、消防としては火災消火活動、また人命救助、大きな2つの仕事があるわけでありまして、その本来の仕事をするために、消防本部としては当然人を割くこともできないでしょう。消防長としても、当然、精いっぱい取り組まなくてはならないと思っております。災害対

策本部へ出かけて、ああしましょう、こうしましょうと、こういう指示なり、手配なりは私はできる余裕はないと思います。

ですから、こういったことはいち早く市長部局において一刻も対応できるようにお願いをしたいというふうに思います。こういった本当、災害はいつ起きるかわかりませんので、対応を早急に進めていただきまして、市民安全・安心のために全力を尽くしていただきたいというふうに思います。よろしくお願いをしまして終わります。

○議長（松岡光義君） 答弁はよろしいですか。

○9番（川瀬厚美君） はい。

○議長（松岡光義君） これで川瀬厚美君の一般質問を終わります。

これをもちまして一般質問を終結します。

◎散会の宣告

○議長（松岡光義君） 以上をもちまして、本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれをもちまして散会いたします。

なお、次回は9月28日に再開しますので、よろしくお願いいたします。御苦労さまでした。

（午後1時35分）

上記会議録を証するため下記署名する。

平成23年9月13日

議 長 松 岡 光 義

署 名 議 員 藤 田 敏 彦

署 名 議 員 山 田 勝